

琉球大学学術リポジトリ

中城・金武湾の短尾類相

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀プログラム 公開日: 2007-07-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 成瀬, 貫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/806

成瀬 貫

琉球大学理工学研究科 21 世紀 COE プログラム

沖縄島の東岸に位置する中城湾には、シオマネキやトカゲハゼ、オガタザクラなど、東アジアに広く分布しながらも中城湾が琉球列島唯一の生息地となっている生物が報告されている。また近年にもユンタクシジミやホソウミヒルモなど多くの新発見が続いており、その生物相は十分に把握されているとは言えない。そこで本研究では、中城湾と近接する金武湾に生息するカニ類相を調べ、また発見された未記載種の分類学的な位置づけを行う事を目的とした。

中城・金武湾において行った、潮間帯や SCUBA による潮下帯での調査、あるいはドレッジ、ペイトトラップ、刺し網などによる採集と文献の情報から、23 科 84 属 153 種を記録した。そのうち 2 種が未記載種、5 種が日本初記録種、そして 5 種が琉球列島初記録種であった。

本研究で発見されたオサガニ属の未記載種、*Macrophthalmus* sp. は、眼柄が非常に長く前側縁に 3 歯を有する点でメナガオサガニ種群の 3 種 (*M. serenei*, *M. telescopicus*, *M. milloti*) に類似する。しかし *Macrophthalmus* sp. は、1) 前側縁の第 2・3 歯の先端が尖らない、2) 雄鋏部の咬合縁の歯の位置と形状、3) 雄の第 1 腹肢先端が短く、急激に外側に曲がる、等の形態学的特徴から、類似する 3 種との識別が可能である。また *Macrophthalmus* sp. の特徴として体サイズが小さい点も上げられ、*M. telescopicus* の小型個体として下田や串本、愛媛から報告されていた標本も実際は *Macrophthalmus* sp. であることが分かった。

浮原島西沖で雄 1 個体のみ採集されたコブシガニ類は、甲や第一触角、胸部の形態から *Alox* 属の一種と考えられる。*Alox* 属には現在までに 8 種が知られているが、本種 *Alox* sp. は *Alox rugosum* に最も類似する。しかし本種は、1) 前側縁の後方への広がり弱く、後側縁との境界点が甲長の半分のレベルにある、2) 鰓部の陥没が顕著でない、3) 前側縁中央付近の背面・腹面の突出が弱い、4) 鉗部両指が短い、等の形質から区別することができる。今回採集された *Alox* sp. は、甲幅 5.8 mm しかなく、報告されている *A. rugosum* の雄 (~14.3 mm) よりだいぶ小さい。しかしながら *Alox* sp. の生殖器である第一腹肢は十分に成長しており、上述した形態の違いが成長段階による差とは考えにくい。この点を追認するために、両種の様々なサイズの標本を比較する必要がある。